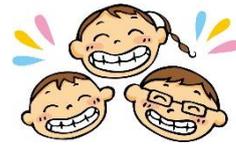


# 1・2年生だより



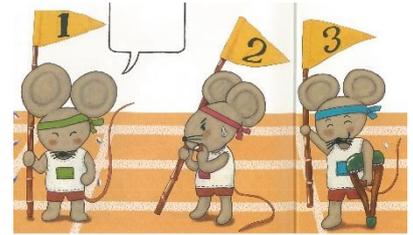
令和6年7月

## 同和学習の授業を行いました

「生きる」というテキストから、「リレーきょうそう」という資料を読み、同和学習の授業を行いました。

「てっちゃんがいるから、いつもぼくらのチームがまけるんだ。」と言って、緑チームのみんなは、走ることが苦手な「てっちゃん」を仲間外れにしました。「てっちゃん」は大きな声で泣き出しましたが、みんなは聞こえないふりをして、リレー競争をしました。「てっちゃん」が抜けたので、そのチームは初めて勝ちました。…というお話です。

まず、仲間外れにされた「てっちゃん」の気持ちを考えました。そして、つらい気持ちに気付きました。



↓子どものワークシートより



- ・足がおそいからってなんでやらせてくれないんだろう。なかまはずれにしないでほしい。
- ・なんでぼくがいるとまけちゃうんだ。やっぱり足がおそいからかなあ。
- ・ぼくも、はしりたい。
- ・なんでぼくだけ なかまはずれにしないでよ。
- ・さみしい。(ないている。)
- ・かなしかった。いやなきもち。(はしるのがおそいから、あしがおそいから…)

次に、「うれしいのは、いちばんになることなのでしょうか。」という課題をみんなで考えました。青チームは3位だけど笑顔なのはなぜか尋ねると、「けがをしていますが、みんなでがんばったから喜んでいる。」ことに気付きました。そして、1番にならなくても一緒に楽しむことが大切であること、そして、仲間外れをして1番になっても心の底から喜べないことに気付くことができました。

最後に、学習を通して分かったことやこれから気を付けていきたいことを考え、シートにまとめました。

### <学習を通して分かったこと>

- ・足がおそくても、けがをしていますが、さべつはぜったいだめ。
- ・なかまはずしは、だめです。さべつ、いじめはだめです。
- ・みんながんばったからいいんだよ。
- ・いじめをしない、ゆるさない。
- ・「さみしい、ぼくもはしりたい。」というてっちゃんのきもちがわかりました。

### <これから気をつけていきたいこと>

- ・ぼくもなかまはずれをしないように、きをつけます。
- ・いじめ、さべつ、なかまはずれは、ぜったいしない。
- ・なかまはずししていたら、声をかけたいです。
- ・さべつをしません。
- ・なかまはずれをしない。さべつをしない。

6月の生活目標での話合いでも話題に上がりましたが、「〇〇ちゃんはいいいけど、〇〇ちゃんのだめ」ということが、1,2年生の中でも実際にありました。今回の学習を通して学んだことを振り返りながら、相手の気持ちを考えた行動ができるように、実践力を高めていきたいと思えます。

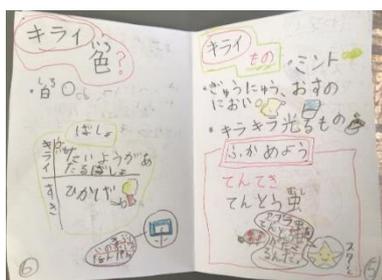
ご家庭でも、このお便りの内容を話題にさせていただき、お子さんと一緒に考える時間を作っていただけると幸いです。

# わたしたちの やさいばたけ

おいしい実を収穫するために頑張ってお世話を続けてきた野菜が、いよいよ収穫の時期を迎えました。最初に収穫できたのは、ナスとピーマンです。キュウリも実をつけ始め、収穫できるようになりました。ミニトマトも順調に育ち、大きくなった実が少しずつ赤くなり始めました。そして、ミニトマトとオクラも少しずつ収穫できるようになってきました。

一方で、問題も発生しました。オクラの葉っぱに、大量のアブラムシとアリがついてしまいました。畑の先生にアドバイスをいただいたり、インターネットで調べたりしながら、対策を考えました。まずは、ガムテープで虫を取ることに始めました。それでも、なかなか改善されないので、今度は牛乳水を作り、噴射しました。レモン水がいいという情報から、家で作って持ってきた子もいました。また、調べて分かったことを絵本にして、「アブラムシ対策」についてまとめた子もいました。

もうすぐ収穫できると楽しみにしていたキュウリが、何者かに食べられてしまいました。畑の先生によると、「カラスが食べたのではないか」とのことでした。「大切に育てた野菜が食べられてしまったら大変だ!」と危機感を抱いた子どもたちは、その日のうちに、植田用務員さんに「ネットを張る杭を打ってください。」とお願いに行きました。そして、植田さんから打っていただいた杭にネットをかけ、防護柵を完成させました。試行錯誤しながら、野菜を守っていく姿が見られます。これからの収穫が楽しみです。



「アブラムシのくじょうほう」



## 夏の俳句教室

7月2日に、ぎんなん句会の皆様を講師にお招きし、「夏の俳句教室」を行いました。五・七・五の十七文字で、自然や情景を詠む俳句…1年生は、先生にアドバイスをいただきながら頑張っておっていました。2年生は、夏の季語を入れ、季節を感じる俳句を工夫して作りました。

俳句教室は、秋・冬と続き、年間5回行う計画です。

